

## 「霧に終えた幸村の夢」(協同組合通信/夢論弾) 15.3.14

NHK大河ドラマ「武蔵」が好調で誠に結構。今の若者には、吉川武蔵ではなく、漫画「バカボン」がブームだ。時代は変わる。韓国の若き旗手も大の漫画ファンとの新聞記事。漫画を見なおすきっかけとなるか。

武蔵は古今無双・不敗の剣客。同じ時代、少し年上の遅れてきた武将・真田幸村。昭和の少年達の血を沸かせた「真田十勇士」のヒーローだ。猿飛佐助や霧隠才蔵が、幸村の意のままに、忍術で縦横に活躍する時代活劇。戦国末期に突如出現し異彩を放った信州真田家三代目に、信幸と幸村がいた。真田昌幸の長男信幸は、家康に見出され心酔する。次男幸村は、秀吉に可愛がられ側近くで器量を磨く。兄弟仲は良く、互いの志は、戦国の定めで袂を分っても変わらなかった。

1614年(慶長19年)大阪冬の陣での出城・真田丸。幸村軍団の神出鬼没の活躍は上方市中の語り草。父昌幸譲りの戦上手で、家康を散々に蹴散らし大いに苦しめた。

和睦成るや、古狸家康が間髪入れず、協約無視の突貫工事で外堀を埋めたのは、偏に真田丸憎し・幸村恐しであった。

大将不在・先の見通せない大阪城内は形式の軍議、天才幸村も浪人客将待遇。秀吉恩顧の男の胸の内と腕が分らない。太閤の夢や幻。翌年五月(現行暦六月)の夏の陣。

運命の二方面への出撃を決した。河内口と大和口。大和口は前隊と後隊に精鋭集結。前隊は幸村より格上、音に聞こえた後藤又兵衛他。後隊が真田幸村・毛利勝永・渡辺胤他。

出撃の朝は強い雨、まもなく止んだが放射熱で無情の深い霧となった。

馬の鼻面も見えない濃霧の大和口。行軍ままならず途中道にも迷い、後藤隊との約束の時に大幅に遅れた。幸村の胸騒ぎは適中し、意を決した前隊は果敢に家康先方隊に挑み、既に影もない。後藤隊と合流し、練り上げた戦術を思うが俛に発揮する幸村の計は狂った。燃える火の玉・赤拵えの主従一丸錐揉みの波状突撃で、家康に「もはやこれまで」と何度か追い詰めた。

やがて盛り返した家康最強旗本軍団の大反撃の中、真夏の露となり蒸発した。現代の予報技術を以ってしても、霧の予測は至難の技。

( 気象情報システム株式会社 高津 敏 )